



神岡地域中川原公園の後川せせらぎ清流へ「すすくだけっこ園」のみなさんでサケの稚魚が再び戻ることを願って放流しました

左の写真：(ちょっとみちくさ)

「スーパーこまちデビュー」

こまちからスーパーこまちへ (中仙地域を快走)

「春は川から」

雪解けが進み勢いを増す南外地域不動の滝



主な内容

CONTENTS

- | | |
|-----------------------|-------|
| ■ 第1回定例会・第1回臨時会概要 | 2～3 |
| ■ 9人の議員が一般質問 | 4～8 |
| ■ 大仙市議会市政懇談会案内 | 9 |
| ■ 委員会審査のあらまし | 10 |
| ■ 陳情・意見書、市民の声、パワースポット | 11～12 |

第1回定例会

2月25日(月)～3月15日(金)19日間

第1回定例会は2月25日から3月15日まで19日間の会期で行われました。本会議第1日目は上程議案の内、条例案3件、人事案3件、委員会付託条例案2件が審議され原案可決・同意としました。また、報告1件、条例案17件、単行案13件、予算案の32件が上程されました。本会議2日目5人、3日目4人の一般質問が行われ市政についてたどりました。第4日目は3人の予算質疑後、63件の上程案、陳情2件を委員会付託とし、3日間の常任委員会が開催されました。第5日目は元氣臨時交付金37億8千万円を受けた一般会計補正予算案等3件を含む委員長報告採決において、大仙市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定について、平成25年度大仙市一般会計予算において反対討論があり、当初予算では、賛成討論もありました、いずれも賛成多数で可決され、66件を原案可決とし閉会しました。主な内容は次のとおりです。

人事案

▽監査委員の選任について

(全会一致で同意)

・福原堅悦氏(大曲福見町 再任)

▽人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

(全会一致で同意)

・小林和子氏(大曲金谷町 再推薦)
・高橋庄孝氏(藤木 新規推薦)

条例案・単行案

▽大仙市議会政務調査費の交付に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(全会一致で原案可決)

議員一人当たり月1万円を1万5千円に引き上げる条例改正

▽大仙市音楽交流館条例の制定について

(全会一致で原案可決)

神岡旧北神小学校を活用、市民に音楽活用の場を提供し、市民の教養、文化の向上を図るものです。

補正予算

▽平成24年度大仙市一般会計補正予算(第10号)

(全会一致で原案可決)

歳入歳出予算の総額に2億4,316万5千円を追加するもので、補正後の一般会計の総額は467億5,672万3千円となります。

主なものとしては、地域雇用基金積立金1億円、生活バス路線の運行にかかる赤字補填として地域交通対策費7,194万8千円の補正、農業体質強化基盤整備促進事業では市内3地区の農業用施設等の整備に対し、1億3千万円の補正、学校給食センターの衛生管理を強化するために198万8千円の補正などとなっています。

▽平成24年度大仙市一般会計補正予算(第11号)

(全会一致で原案可決)

【24年度の最終予算額500億を超える】

定例会最終日に追加提案され、歳入歳出予算の総額に37億8,265万1千円を追加し、補正後の一般会計の総額を505億3,937万4千円としました。

主な内容としては、消防・救急デジタル無線の整備に係る市負担金4億8,440万7千円の補正、市街地再開発事業(仙北組合総合病院)が国の元氣臨時交付金での充当が可能となったため、前倒し分として21億7,369万円の補正、今冬の豪雪により除雪対策費1億5千万円の補正などとなっています。

国の元氣臨時交付金に係る事業は、25年度で実施されます。

当初予算

一般会計の歳入歳出予算の総額は47億235万6千円で、前年度当初予算に比較して33億9,982万3千円の増、率にして7.7%の増となっております。また国民健康保険事業などの18の特別会計は192億6,670万3千円で、5億7,395万3千円の増、率にして3%の増となっております。

3議員が予算質疑

3月7日本会議第4日目において、平成25年度当初予算案に対する予算質疑が行われ、3議員が市当局に対して見解を質しました。主な質疑は次のとおりです。



【児玉裕一議員】
(だいせんのか)

◇空き家等対策費について

Q. 今後更に増加すると思われる空き家に対し、どんな対策を考えているのか。

A. 空き家条例の目的に沿って適正管理の指導助言を行うほか、空き家バンクを利用した転売や賃貸をPRしたい。また、所有者から寄付していただき、空き家を解体した跡地を公園や排雪場所に活用するなどの方法も研究したい。

◇青年就農給付金事業費について

Q. 若い担い手を育成するためには良い事業だと思われるが、今後拡大の考えがあるのか。

A. 国の事業として制度化された同制度は、農業を志す若者が安心して営農に取り組める施策として期待できることか

ら、国に対して制度の維持を働きかけた
い。

※児玉議員はこのほか「旧池田氏庭園
整備事業費について」も質問しました。



【武田隆議員】

(大地の会)

◇大仙市の予算編成のあり方について

Q. 地域のための新規事業を各支所の考
え方で立案し、実行できるような予算編
成をすることで地域に目を向けた行政運
営につながると思うかがか。

A. 各地域の懸案事項や要望は各支所が
主体となつて把握し、きめ細やかで効率
的・効果的な事業実施に結びつける予算
とし、予算編成においても、支所から出
された要求は、支所を交えて十分ヒアリ
ングを行ったうえで予算要求している。
また、予算編成の基となる実施計画等の
立案の際にも、各地域の考えを積極的
に取り入れている。

※武田議員はこのほか予算編成の基本
としている「スクラップアンドビルドの
実態について」も質問しました。



【後藤健議員】

(まつすぐ大仙)

◇特定不妊治療・

不育症治療費補助金について

Q. 補助対象となる医療機関が県内6つ
のみ指定されているのはなぜか。

A. 患者の安全を確保するため日本産婦
人科学会が適格性を判断し、基準を満た
した医療機関を指定している。なお、指
定医療機関であれば、全国どこでも補助

を受けることが可能である。

Q. 経済的理由で不妊治療を躊躇するこ
とがないよう所得制限を撤廃又は緩和す
べきではないか。

A. この制度は高額な治療費の負担軽減
を目的に行われているため、県と同じ基
準を継続していきたいと考えている。

Q. 不妊に悩む方に直接制度の情報が行
き渡るよう周知を工夫すべきではない
か。

A. 平成25年度においては市のHPに掲
載するほか、チラシを作成し、各医療機
関や公共機関等にも配布し周知したい。

※後藤議員はこのほか「市債の発行に
ついて」も質問しました。

平成25年度一般会計・特別会計予算

会計名	予算額	前年度比	可否	
一般会計	47,402,356千円	7.7%	賛成多数可決	
特別会計	国民健康保険事業	10,169,143千円	1.3%	全会一致可決
	後期高齢者医療	860,873千円	△3.0%	全会一致可決
	土地区画整理事業	2,289,407千円	21.1%	全会一致可決
	学校給食事業	926,309千円	1.5%	全会一致可決
	奨学資金	33,692千円	△7.9%	全会一致可決
	簡易水道事業	1,078,778千円	0.1%	全会一致可決
	公共下水道事業	1,739,989千円	△1.1%	全会一致可決
	特定環境保全公共下水道事業	761,378千円	0.8%	全会一致可決
	特定地域生活排水処理事業	25,615千円	△3.8%	全会一致可決
	農業集落排水事業	1,243,338千円	3.6%	全会一致可決
	老人デイサービス事業	49,858千円	0.5%	全会一致可決
	スキー場事業	69,717千円	32.6%	全会一致可決
	財産区(6地区)	18,606千円	126.9%	全会一致可決
市立大曲病院事業	1,108,685千円	0.5%	全会一致可決	
上水道事業	1,005,325千円	△20.9%	全会一致可決	
計	68,783,069千円	5.7%		

▽反対討論【佐藤文字議員】

平成25年度一般会計予算は、24年度比
21名の職員削減、大幅な生活保護費削減
である。また、高齢化や一人暮らし世帯
の増加、豪雪や豪雨が頻発する大仙市に
おいて、市民の安全・安心な住生活の保
障とあらゆる市政情報の共有のために
は、公務員の果たす役割は大きく、人数
も質も向上がはかられるべきである。
国の財政動向に従った予算であり、市
職員の削減に反対の立場から、本予算に
反対するものである。

▽賛成討論

【富岡喜芳議員】

平成25年度一般会計
予算に関しては、公債
費適正化計画を遵守
し、平成26年度末の公
債費適正化比率18%以
内に抑える対策等、財
政運営に努力されて
いることに敬意を表す
る。また、市民目線で
市民のために行政を掌
るといふ姿勢のもとに
編成された当初予算を
評価し、さらに、市民
のための市政を作り上
げていくことを願って賛
成討論とする。



第1回臨時会

1月18日(金)1日間

平成25年第1回臨時会が1月18日に1
日間の会期で招集され、上程された平成
24年度一般会計補正予算、平成24年度上
水道事業会計補正予算を全会一致で原案
どおり可決し閉会しました。

▽一般会計補正予算

(全会一致で原案可決)

内容としては、今冬の豪雪にかかる
市道の除排雪経費として4億円を追加
し、補正後の予算総額を462億5,
805万8千円とするものです。また、
「大仙市経済・雇用・生活緊急対策本部
第5次行動計画」に基づいて、平成25年
度発注予定の工事のうち、市道の舗装や
側溝の修繕などを前倒し発注するため債
務負担行為2,800万円を設定するも
ののほか、指定管理者による管理を予定
していた神岡中央公園の一部、中川原コ
ミュニティ公園、笹倉公園の3公園を当
面、市直営で管理することに伴い、指定
管理料として設定していた債務負担行為
3,162万5千円を取り消すものです。

▽上水道事業会計補正予算

(全会一致で原案可決)

一般会計補正予算と同様、「第5次行
動計画」に基づいて、平成25年度発注予
定の工事のうち、大曲橋(金谷橋)架け
替えに伴う配水管移設工事のほか、東川、
花園町両地内の配水管改良工事を前倒し
発注するため債務負担行為3,614万
円を設定するものです。



大地の会

大野忠夫 議員

Q 県生活排水処理整備構想の大仙市整備構想の見直し骨子は

A 整備手法見直しで合併処理浄化槽処理区域に転換など選択時期に来ている

市税・国保税等公金収納率向上について

質問 公金収納率向上に担当者は苦勞の連続と思うが、これまでどんな対策を検討し結果をだしてきたのか伺う。

市長 ①滞納整理等による市職員派遣事業による市職員の派遣を受け、市職員の育成指導を行うと共に納税班をH20年に収納推進課(23年度税務課に統合)として独立させ効果的な収納率向上に努めている。②H19年度から税理士1名をH21年度から金融機関OB2名を滞納相談、訪問徴収等滞納整理指導員として採用、収納充実効果を図っている。③秋田県滞納整理機構に職員1名派遣、県と連携を図りながら滞納整理の推進に努め、25年度も派遣予定である。対策実施後の23年度収納率は(細部省略)大仙市14種の公金収納率は93・01%、99・61%である。

質問 秋田県滞納整理機構の活用実績は。

市長 滞納額100万円以上を機構に引き継ぐことにしている。22、24年度3年間の依頼人数235人、2億7,749万円を依頼している。

公共下水道計画の推進

質問 公共下水道計画の進捗状況は。

市長 西仙北・協和、仙北は終了。継続となつている地域の23年度進捗率は、大曲41・9%、神岡49・7%、中仙73・5%、南外36・5%、遅れている要因は①国の公共投資抑制②市の総合計画で全体的にバランスのとれた施策の展開を図る必要性③合併特例期間終了後の市の財政状況④震災関連重点配分予算等を考慮すると、未着工地域の住民に着工時期を不明言が実情。

質問 子供たちの未来を展望し国の公共投資抑制に強力な陳情はできないか。

市長 環境に課題があれば機構変更、行政改革で手直しをする。

市長 公共事業は国の制度を活用すべきと考えている。行政も動くので議会としても県、関係省庁等に働きかけをお願いする。

市長 未来を担う子供たちの意見は学校等と相談し生活環境、住環境問題を対話できるような仕組みを検討する。

質問 県生活排水処理整備構想の25年度見直しで市整備構想の見直しは。

市長 地域の生活環境やニーズを的確に把握し実現可能な整備計画を取りまとめる。また「集合処理型」の整備手法は多くの課題や問題が浮上している。「単独処理区域」への選択の時期に来ている。

地域ごとの栄養指導について

質問 食生活推進協議会の活動環境は十分か。

市長 環境に課題があれば機構変更、行政改革で手直しをする。

一般質問



だいせんの会

佐藤芳雄 議員

Q 南外地区林道の水沢々線の舗装計画は

A 26年度の事業実施予定

質問 南外地区の林道、水沢々線の舗装計画は、どうなっているのか伺う。

市長 延長1,810mのうち、中間点付近が急勾配のため、路面浸食が懸念される250mの区間の舗装について、平成25年度に事業費870万円、計画していたが、林業施策全体の中で検討した結果、26年度の事業実施となる予定である。

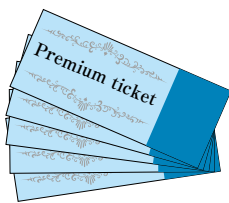
が必要と考えるが、所見を伺う。また、市内の景気浮揚と地域内の消費拡大を図るためにも、来年度以降も継続するべきと考えるが、伺う。

質問 住宅リフォーム支援事業継続について

市長 来年度以降における本事業の継続については、平成21年度の大仙市商品券事業において、総額5億4千5百万円の換金実績があり、大型店以外の各地域の小売店や生活関連サービス事業所などにおいては、52%、大型店では48%の換金があったことを見ても、市内の景気浮揚と地域内消費の拡大について、有効な事業であると認識している。平成25年度事業の実施効果を検証し、商工団体の意向や市の財政状況を勘案したうえで判断したいと考えている。

市長 平成25年度も継続して実施する。

住宅リフォーム支援事業については、地元業者と地域住民との繋がりを高め、お互いの信頼関係が深められ、地域活性化にも結びついていくものと考えられることから、平成26年度以降についても、申請状況等を見据えながら、継続していきたいと考えている。※佐藤議員は、これらの他に「森林の整備について」の質問も行いました。



9人の議員が市政全般にわたり



新国会

茂木 隆 議員

Q 除雪体制の検証と
新たな計画の策定を

A 中長期的な視点に立った除雪
体制の構築にむけ、除雪計画
の見直しを検討

質問 大雪により増え続ける除排雪費、今後の財政規模の縮小を見据え、除雪体制を検証し、課題を洗い、経費の節減を含め、除雪計画の見直しが必要と思うが何う。

市長 市民生活の安全安心を確保するため、毎年除雪計画を策定し、臨んでおるが、要望も多種多様化してきており、今冬の除雪体制を検証し、将来にわたって持続可能な体制の構築にむけ「大仙市除雪計画」の見直し作業を進める。この中では、除雪に携わる人員の確保及び機械の確保などに対する方針や、除雪センサーの配置を含め、創意工夫による効率的な作業経費の削減などについて、官民一体となり検討する。

質問 大仙市除雪計画により、平成24年度は、新規3件、更新10件に補助金を交付しており、新規に消雪施設を設置する場合、受益者負担を軽減するため、補助金の限度額の増額を検討する。

組織機構の再編は

質問 定員適正化計画での職員減少を踏まえ、今後の組織機構を何う。

観光振興

質問 交流人口の拡大を図る上で、観光の推進は極めて重要であると思うがどうか。

市長 官民一体となった取組が重要で、4月設立の「大仙市観光物産協会」を主体的な役割を担う団体として位置づけし、観光事業者や観光ボランティアガイド、農業生産者、食のグループ、コミュニティ組織、行政組織などと連携しながら、協働により地域に根ざした観光振興に努め、秋田DC（デステイネーションキャンペーン）については、4月に「大仙市DC推進委員会」を立ち上げ、受入態

市長 「消雪施設整備補

質問 中長期的なランニングコスト及び高齢化社会を考え、消融雪施設の整備拡充、除雪機械の更新を促進するべき。

市長 「消雪施設整備補



一般質問



大地の会

石塚 柏 議員

Q 生徒が主体になって取り組む「いじめ防止プログラム」の実施を

A 市内の中学では「青いリボン運動」「ありがとうの木運動」などに毅然と向かう取組をしている

大仙市都市計画について

質問 全国の法務局を「いじめ問題」で救済を求める児童・父兄の件数が20・6%の大幅な伸びを示しているが大仙市の現況はどうか。

教育長 年3回の調査で12月に行なわれた内容は、小学校で10件、中学校で8件の認知件数を把握している。

質問 大曲駅前第二地区土地区画整理事業は平成27年度までに、中通線を中心とした環状線、旧仙北町から環状線へのアクセス道路の完成を目指しているが、完成の目処はどうか。また区画整理事業の換地処分、精算を含めた事業が完了する目処は何時か。更に、事業の期間を出来るだけ短縮し、財政負担を軽減すべきと考えるが、どうか。

質問 「いじめ」を分類すると「けんかや意地悪」「いわゆるいじめ」「いじめ非行」になるが、この中で「いじめ非行」は暴力・使用いパシリ・物を壊す・嫌がることの強制等があり、教育だけで解決しない問題があると思うが、どう対処されるのか。

教育長 学童に対する傷害、心身の苦痛又は財産上の損失を与える行為、授業を妨げる行為など正常な教育活動を妨げる場合は法令等に基づいて、その対応を学校の運営規定に定めている。

市長 中通線は平成25年度に用地買収を完了し26年は道路工事、27年度内に舗装工事を完了し年度内に供用を目指す。旧仙北町からのアクセス道路の完成で大曲駅前中心市街地への交通の利便性が向上するものと考えている。区画整理事業の完了は平成33年度になる予定で、事務経費も含めて29.8億円でする予定である。

質問 「いじめ」の当事

教育長 「いじめ」の当事

市長 「いじめ」の当事



大地の会

金谷道男 議員

Q 全国和牛能力共進会で日本一を目指すプロジェクトをつくるべきと思うがどうか

A 早期に次回宮城県大会に向けた体制構築に取り組みたい

質問 昨年第10回全国和牛能力共進会において、秋田県の義平福の産子が肉牛部門で優等賞二席の評価を受ける等県産和牛の評価が高まってきている。この流れを強める為に、大仙市産和牛で次回宮城県で開催予定の第11回全国和牛能力共進会での日本一を目指して早期に大仙市プロジェクトを立ち上げるべきと思うがどうか。

家庭系ごみの減量対策が必要でないか

質問 平成20年にごみの焼却量特に家庭の燃やせるごみの増加に歯止めがかからないことから、ごみ減量策の一つの方法として処理手数料の徴収を導入して、4年が過ぎた現在、徐々にではあるが家庭の可燃ゴミが増加傾向にある。循環型地域形成を目指すためにも、何らかの施策を講ずる必要があると思うがその具体的な誘導策を何か考えているのか何う。

はじめ、J Aや県などの関係機関と検討の場を設け、早期に体制の構築に取り組めるよう努めていく。

加に転じた。このため市では、家庭ごみの袋の内容調査やこれまで実施した施策の検証を行い、一般廃棄物の処理基本計画の見直し作業を行なっている。具体策としては、紙類の回収率向上のため雑紙リサイクル袋による分別推進や布類の資源ごみとしての回収の平成26年度実施へ向けての検討、事業所への啓発の強化等とされている。今後とも見直し後の基本計画に基づき、市民・事業所・行政が一体となって、循環型社会の構築に向け、より一層努力する。

質問 平成23年度可燃ごみは水害の影響もあつたが、家庭系ごみは減少率が低下し、事業系は増加したその結果、総排出量が有料化以降初めて0.5%の増

みは水害の影響もあつたが、家庭系ごみは減少率が低下し、事業系は増加したその結果、総排出量が有料化以降初めて0.5%の増

※金谷議員は、これらの他に「債権管理について」の質問も行いました。

一般質問



大地の会

富岡喜芳 議員

Q 中仙地域集団食中毒ノロウィルスの感染源は

A 感染源の特定はできない

質問 食中毒が全中仙地域内、各学校内、給食センター内で蔓延状態になる前に早期発見出来なかつたのか。

表、食材一覧、職員健康チェック表、クラス別の人数表等の資料の提出も求められた。

質問 罹患者に対する医療費などの補償に係る調査について

教育指導部長 今回の食中毒事件発生前の給食センター職員及び家族の健康状態は、自覚症状や体調不良はなく、検査等の必要はなかつたし、食材も安全性が確認されたと認識している。通常通りの衛生管理に努めていた。

学校栄養士、調理員の班长にも聞き取り調査があり、1月31日以前にセンター内、調理場内での作業や配送中に何か変わったことがなかつたかを聞かれた。また、職員の服装や着替え、配送車への積み込みなどについて実際に確認することの指導があつた。

教育指導部長 調査票の全体数794件中632件で回収率は79.6%である。医療費の申請は、児童生徒及び教職員、合わせて278人、二次感染者85人、合計363人であり、今後調査票未提出の方に、提出のお願いをしていく。補償金額については、弁当持参分などは見込めるが、医療費を支払った方、お見舞金等、様々なケースがあり、見込額を現在調査中である。

質問 中仙給食センターの給食が原因であると断定したと報道され、その後、大仙保健所の給食サンプル検査では異状がなかつたところ。給食センター職員12検体中5検体からノロウイルスが検出されている。限りなく職員が感染源に近いと疑われるが、どのような調査、検査を行ったか。

質問 二次感染者も含めた罹患者は何人か。

教育指導部長 2月4日時点では237人の発症を大仙市保健所で確認しており、その後、新たに19人が感染しており、全体の罹患者は290人程になるとの情報を得ている。



市長 昨年の全国和牛能力共進会の成果は、今後の県畜産業発展に大きく貢献するものと期待している。この盛り上がり継続し更なる効果を上げる取組みが地域農業活性化には必要と考えている。市内には宮城大会を目指したいという若手畜産農業者も多くいることから大会の出品条件等の基本骨子も見極めながら市としても、導入事業の制度充実の検討や夢プラン事業の活用などによる支援をは

市長 平成23年度可燃ごみは水害の影響もあつたが、家庭系ごみは減少率が低下し、事業系は増加したその結果、総排出量が有料化以降初めて0.5%の増



大地の会
武田 隆 議員

Q 人が育とうとする芽に
どう対応するか

A 家庭や学校、地域社会が密接
なおかつ重層的に影響しあい
ながら実現

質問 秋田県を心から「ふるさと」と思い、ふるさとのために頑張ってみようという人間、人が育とうとする芽に対し、行政として、どのように対応するの
か何う。

市長 人間を育てることについては、地域を担う人材育成、いわば「人づくり」という概念で捉えると、よい良いまちづくりを進め、地域を発展させていく上では、まさに根幹を成すものであり、重要な要素だと思っている。「人らしき人」を育むこと、「人らしき人の才を生かせる場」を創出することは、行政だけで成し得るものではなく、家庭や学校、職場を含む地域社会、そして、人と人とのつながりなどが密接かつ重層的に影響し合いながら実現されていくものであると思っている。

農業政策について

質問 大仙市農業を魅力ある産業に育て、大仙市農業を再生するためには、農業従事者、地域の方々、農業団体が今まで以上に議論を重ね農業の行く末を探っていくことが重要と考えるが、どうか。

市長 消費税増税前の法人設立については、農業用機械や農業用施設の導入時に負担軽減できるよう、集落営農組織への早期法人設立を促していく。また、足腰の強い農業法人の設立のため、税理士費用の支援などを継続していく。

ユメリアを広域防災拠点とする件について

質問 大仙市全体の公共施設を検討した結果か。また、豪雨の土砂崩れ発生時や冬の積雪期に大震災が発生した場合、支援体制に支障を来すと思うが、どうか。

市長 市や県の地域防災計画の見直しでは、大仙市においてはベース基地として総合運動公園を、また総合指揮本部機能としては大曲市民会館、大曲交流センター、同駐車場エリア全面を候補地としている。

2003年のユメリア進入道路の崩壊については、国の助言によって、法面全体をコンクリート造とし、水抜き配水管を整備し、さらにアンカーボルトにより、強固な構造で修復しているの、著しく危険とは言えない。

一般質問



公明党

杉沢千恵子 議員

Q 中央斎場の跡地を
景観のよい墓園に

A 安らぎのある空間を目指し、
検討する

質問 園内にある中央斎場が移転することに伴い、跡地利用については、きれいな景観の墓園にしたい。

市長 斎場跡地の整備は、大曲仙北広域市町村圏組合で、中央斎場の移転改築事業を実施しており、現斎場は平成27年度に解体する計画である。大曲地域の墓地需要が高いことから、来年度、規制墓地30区画の増設を計画している。今後の需要予測を立て、中央斎場跡地を活かしながら、大曲墓園を拡張することで、斎場敷地の所有者である大曲仙北広域市町村圏組合と協議を進めていくこととしている。斎場の解体に伴い、墓参りに訪れた方々がくつろげ、安らぎのある空間を

目指し、駐車場の整備や休憩室と公衆トイレの設置及び墓園内道路の拡幅などの一体的な整備について、スプリングレビューにおいて

検討を進める。今後も市民の要望に応じた計画的な増設、墓園内の良好な景観の保持に努める。

DV防止について

質問 男女共同参画・交流推進課の市民意識調査（平成23年6月1日～17日実施）の報告書では、配偶者など親しい関係にある者からの暴力で、怒鳴る、嫉妬、物を壊す精神的暴力が5割、殴る、蹴る刃物を突きつける身体的暴力と性的暴力を合わせて3割にのぼる実態がでた。同じく大仙市内の高校生意識調査でも交際相手からの暴力被害（デートDV）では、1割弱の人が被害経験があると

弱の人が被害経験があるとされている。被害から逃れるための第一歩として、電話相談窓口を設置してはどうか。

市長 (1)について、23、24年度実施の「DV被害者支援要請講座」を受講した43名を中心に制度の創設を検討する。

(2)について、市の相談機関への相談は、わずか1:6%という結果であり、DV意識の低さとプライベートで顕在化しにくい特性がある。電話相談者への対応は極めて難しいので、県の配偶者暴力相談センターを利用するよう情報提供に努める。

※杉沢議員は、これらの他に「体罰について」と「市の福祉行政と社団法人社会福祉協議会との連携検討委員会」の設置について「質問も行いました。」





日本共産党

佐藤文子 議員

Q 就学援助対象範囲の拡大を

A 生徒会費・PTA会費は

実施に向け検討

重大な局面のTPP問題について

質問

文部科学省は平成22年4月から就学援助の対象範囲（支給品目）にクラブ活動費、生徒会費、PTA会費の3つを追加する要綱の一部改正を行ったが、準要保護者は要保護者に準ずる程度に困窮していると認められたものであり、その支給にあたっては、要保護者との格差があつてはならない。改正要綱に則り、当市でも就学援助対象範囲にクラブ活動費、生徒会費、PTA会費を含めるよう求めるが見解を伺う。

質問

①安倍首相はTPP交渉参加に大きく踏み出す意向を示したが重大な局面を迎えたTPP問題と安倍首相の一連の対応をどのような思いでおられるか。

②国内屈指の米の生産地である大仙市の市長として、この際市民、団体の皆さんと一緒に政府と政権政党に対し、TPP参加阻止の要請行動を行う考えはないか伺う。

市長

クラブ活動費については、児童生徒全員が一律に負担すべきこととなる経費の算定が難しい状況にある。

については、生徒会費やPTA会費の一律に負担すべき経費においては今後、予算積算単価や生活保護基準の見直しなども踏まえて実施に向けて検討させていただく。

市長

①平成22年10月県内いち早くTPP締結反対の決議の意見書を可決し、同年12月開催のJA秋田および主催の農業危機突破生産者大会での決議に出席し市として反対した。この立場は今も変わらない。TPPに参加した場合、特に米に大部分を依存する大仙市においてはその影響は大きい。これまでTPP参加による影響について政府として統一した試算の情報が国

民に公表されていない中で交渉に参加することは様々な問題で大変不安に思う。

②一定の合意としている以上TPP参加問題については決着がついたものと考ええる。残念であるがそう思う。政府が参加するということであれば、その中で国益をどう守るのか、我々も真剣に考えていかなければならない。国会においてしっかりと議論をしていただくよう、国会議員に働きかける方向を考えてみたい。

※佐藤議員は、これらの他に「灯油購入助成事業の緊急実施について」と「高齢者世帯の除排雪、雪下ろし支援について」の質問も行いました。



公共施設運営改善等調査特別委員会
中間報告

大仙市公共施設運営改善等調査特別委員会（委員長藤井春雄）は第1回市議会定例会で、中間報告として「道の駅」に関する調査・審査結果について次のとおり報告を行いました。

道の駅かみおかについて

- ①平成23年度の利用者は11万5千人とピーク時の32%減、売り上げは36%減となっている。
- ②屋台市場の増設、レストランの移設、野菜直売所の増設など経営改善に向けた取り組みを行っている。
- ③経営改革の目標として、平成27年度に、売店部門1,500万円、レストラン及び屋台部門は1,900万円に、利用者数は13万人として経営安定化対策を挙げっており、目標達成できるよう取り組んでほしい。
- ④別棟となつている野菜直売所と道の駅の通路改善、直売所の増設、販売者からの売り上げ手数料負担について、市当局並びに直売所関係者と協議の上、進めて欲しい。
- ⑤レストランでは地域の特色を活かしたメニュー、例えば大曲の納豆汁を加え、PR・販売を検討してもらいたい。

道の駅なかせんについて

- ①施設利用者は平成23年度のリニューアル効果などにより大きく回復している。
- ②平成23年度から、期間限定の無休営業やレジシステムの共通化、大規模催事販売で利便性の向上と集客に努めている。

また、「道の駅なかせん協議会」を発足させ改善に取り組んでいる。

- ③経営改革の目標として平成27年度に、利用者数をピーク時の17万人に回復させ、営業団体の活性化、施設の維持管理強化など計画に掲げており、目標を達成できるよう取り組んでほしい。
- ④物産中仙米菓工場は見学者も多く、道の駅の営業時間と一体の製造で相乗効果を図ることやゴールデン、シルバーウィーク時の施設の見学も検討してほしい。
- ⑤米粉挽き機は受付から完成手渡しに時間がかかると苦情もあることから、受付日と完成日を広報で周知するなど利用者の立場で検討されたい。
- ⑥米菓部門は自社製品の販路拡大と新商品開発など更なる売上向上に努めてほしい。
- ⑦物産中仙米菓工場の機械設備が老朽化していることから、道の駅なかせんと物産中仙株式会社の今後の在り方を含めた経営改革に取り組むよう検討してほしい。

道の駅かみおか



道の駅なかせん



大仙市議会 市政懇談会を開催

市民の皆様のご意見をお聞かせください

市議会では、市政の諸課題に柔軟に対処するため、市政全般にわたって、市民と自由に意見を交換するため、今年度も次の日程で市政懇談会を開催します。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

「より開かれた議会を目指し」

6月24日(月)～28日(金)



【問い合わせ先】

議会事務局 Tel 63-1111 (内線 304)

開催日	場所	時間
24日(月)	南外コミュニティセンター(南外字下袋218)	午前10時～
	はびねす大仙(幸町2-70)	午後1時30分～
25日(火)	大川西根公民館(大曲西根字小館10)	午前10時～
	藤木公民館(藤木字乙本藤木8)	午後1時30分～
26日(水)	神岡福祉センター(神宮寺字蓮沼17)	午前10時～
	中仙農村環境改善センター(北長野字茶畑141)	午前10時～
27日(木)	西仙北支所(刈和野字本町5)	午前10時～
	協和支所(境字野田4)	午後1時30分～
28日(金)	太田文化プラザ(太田字新田田尻3-4)	午前10時～
	仙北支所(高梨字田茂木10)	午後1時30分～

※日程については、変更になる場合があります。変更についてはチラシ等でお知らせします。

大仙市議会基本条例第11条第2項では、「議会は本会議及び委員会における議案の審議及び審査に当たり結論を出す場合にあっては、議員相互間の議論を尽くして合意形成に努める。」との規定があり、平成25年第1回定例会から「自由討議」を常任委員会でも実施しました。今回は、教育福祉常任委員会において、議案第52号「平成25年度一般会計予算」の審査の中の学校給食センターが所

自由討議を開催

管する予算について自由討議が行われました。



自由討議中の教育福祉常任委員

平成24年度における、政務活動費での会派行政視察等について、報告します。

【大地の会】

◆10月31日～11月2日
大分県大分市議会

- 議会改革について
- 子ども条例の制定について
- 議員政策研究会について
- 熊本県玉名市
- アウトソーシング計画について

◆1月22日～1月23日
千葉県船橋市

- 公金徴収一元化について

金融庁

○中小企業金融円滑化法等について

【だいせんの会・新政会・市民クラブ】合同

◆8月27日～8月29日
富山県魚津市

- 地域振興プロジェクト「市民役のまちづくり」について
- 長野県松本市
- 新・エネルギービジョン・小水力発電について

◆2月12日～2月13日
福島県南相馬市

- 震災による原子力災害の現状と自治体の協力について

【公明党】

◆3月21日

- 岩手県奥州市(美希病院)
- 足こぎ車いすでのリハビリについて

【まつすぐ大仙】

◆5月18日～5月21日

- 兵庫県神戸市
- 「第2回若手政治家サミット」研修会への参加

◆8月20日～8月21日

- 香川県坂出市
- 全国若手市議会議員の会総会研修会への参加
- ※その他の会派では、行政視察がありませんでした。

用語の解説

【一般質問とは…】

一般質問は定例会において行われるもので、議題とは関係なく行財政全般にわたる議員主導による政策論議の場です。ですから、質問する議員も執行機関も共に十分な準備が必要です。そのために、他の発言と違って通告制をとっています。通告に当たっては、質問の内容を具体的に記載しなければなりません。

【条例とは…】

条例は憲法94条の規定により市の事務に関して定めた法規の一種です。条例は住民に対して他の法令と同じように、権利を制限したり、義務を課したりするものですから、住民の代表である議会の議決がなければ制定したり廃止することはできません。条例の制定、改廃にあたっては住民の意思の反映に努め、条例の効果や他の法令との関係など十分な検討が必要です。

総務民生常任委員会

中仙地域の小中学校で、学校給食による集団食中毒が発生した事による市長、副市長、教育長の給与の一部削減に関する条例改正では、新しい年度からの給食協会が体制を刷新することで、原案のとおり可決すべきものと決しました。議会政務活動費を月1万円から1万5千円にする条例に関し、活動の機会、範囲の拡大が見込まれることから、妥当だという特別職報酬等審議会の結果を受け、審査の結果、一人退席議員がおりましたが、出席議員の一致により、原案のとおり可決すべきものと決しました。

特別職の職員で非常勤のもの、消防団員についてですが、誤報や鎮火後の出動に際し、今まで無給であったものを1日2千円支給する条例改正については、全員一致で可決すべきものと決しました。25年度予算の質疑に対し、「職員数が減る中で、1本庁7支所体制は事務事業の集約化を図りながら今後も持続していくこと。」「国民健康保険事業で所得の少ない方へは7割、5割、2割の税の軽減制度があり、それに該当する世帯には資格証明書を発行していない。」「財産区の構成員は区域内に住所を有する全ての住民を対象とする。また、財産区からの補助金に関しては一般会計予算に繰り出したうえで、支出するのが原則である。」等の答弁がありました。

一般会計について、職員の削減は市民の生活に支障をきたすことから、認められないとの討論がありましたが、賛成多数により、原案のとおり可決すべきものと決しました。(委員長 渡邊秀俊 記)

企画産業常任委員会

当委員会に審査付託となりました案件は、単行案1件、補正予算案2件、当初予算案1件、陳情1件で、単行案の「大仙市過疎地域自立促進計画の変更について」は異議なく原案を可決すべきものと決しました。

また、補正予算案の中で、「過疎集落等自立再生緊急対策事業費」の半道寺地区9集落の住民が一堂に会する「半道寺三代交流会館建設事業」について、「集落会館の維持について、今後どのように考えているのか。」との質疑に「現在は、1集落1会館が主な地域自治会館であるが、少子高齢化が進み集落機能の低下により、維持が困難になる可能性がある。今後は集落の連携が必要となり、今回のような要請があれば市として協力し、コミュニティ機能の形成を進めていきたい。」との答弁があり、異議なく原案を可決すべきものと決しました。

また、当初予算案の「緊急雇用対策を活用した、写真フィルムデジタルデータ化事業で、雇用する16名は、すべて市民か。」との質疑に、「これまでは秋田市の業者へ依頼していたため、地元の雇用率が低い状況だったが、平成25年度は中仙支所の空きスペースに作業場所を移し、通勤しやすい体制を整えることで、地元の雇用率をたかめたい。」との答弁があり、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決しました。陳情1件については「採択」すべきものと決しました。(委員長 茂木 隆 記)

教育福祉常任委員会

当委員会に審査付託となりました案件は、条例案7件、単行案6件、予算案10件、陳情2件であり、すべて「原案可決」すべきものでありました。条例案では「大仙市音楽交流館条例の制定について」は神岡地域の廃校になった学校を利用することはよいが、設置するだけでなく利用促進に努めるべき、また緊急時の避難場所として位置づけてほしいという地元の声があるが、その周知の仕方について質疑がありました。当局からは、「各公民館と連携を図りながら、情報がスムーズに分かる仕組みを作ってまいります。」また、「避難場所としての周知については、交流館協議会を設立して協議してまいります」との答弁がありました。

また、今回、議会基本条例に基づいて『学校給食の委託のあり方』について議員間の自由討議を行いました。委員からは、「全国にある民間企業を含め、プロポーザルして比較・向上しながら子ども達にとってより安全な体制をとっていただきたい」という意見や、「合併前の旧市町村で給食に携わっていた職員について、現在学校給食協会が職員として雇用している、学校給食協会が地元雇用、地場産食材、役員について改善を図りながら運営を行っており、この4月から新たな組織になろうとしているときに、他の業者に委託という話にはならないのではないか。」という意見もありました。(委員長 大山利吉 記)

建設水道常任委員会

当委員会では、条例案4件、単行案6件、補正予算案10件、予算案8件を審査しました。

補正予算案では、国からの「地域の元気臨時交付金」によって、除雪機械の購入や通学路の歩道整備などが前倒しで実施されることとなりました。特別会計への繰り入れでは、委員から「下水道の進捗が非常に悪い、どう進めるか。」との質疑に、当局から「合併特例期間が終了するとさらに硬直化する、合併処理浄化槽を念頭においた計画の見直しを図る。」との答弁がありました。

当初予算案では、土地区画整理事業において、委員から、「巨額な経費を投資して都市再生をするわけだが、住宅を建てないまま放置されている空き地の対処は。」との質疑があり、当局からは「事業に合わせた土地の利用ができるよう、権利者に説明していきたい。」との答弁がありました。また、公共下水道事業予算では、委員から「市民から理解を得て、水洗化率を上げていかなければならないが、どうか。」との質疑があり、当局からは「下水道の未接続には、高齢世帯が大きな要因となっているが、加入率をあげるため、市民を説得していく。」との答弁がありました。その他の議案については原案可決すべきものと決しました。

また、西仙北地域の「鍛冶町地内の消雪施設の改修について」は、現地の状況を把握するため、継続審査といたしました。

(委員長 竹原弘治 記)



副議長からの説明を聞く小学生

議場見学
平成25年1月23日、大曲小学校の6年生131人が、社会科フィールドワークにおいて、議場を見学し、議員席に座り、地域子育て支援拠点施設「まるこのひろば」、小学生までの医療費無料及び大仙市議会の役割について、藤田副議長や市の担当者からの説明を聞きました。
質問では、「医療費が無料ということ、お金が無くなるのでは。」との質問が出され、「市から「市民からの税金で賄っている。」との回答がありました。

6月定例会日程のお知らせ

- 6月3日(月) 本会議第1日 (市政報告・議案上程等)
 11日(火) 本会議第2日 (一般質問) **対面式一問一答方式**
 12日(水) 本会議第3日 (一般質問・議案質疑・委員会付託)
 13日(木)・14日(金) 常任委員会審査
 19日(水) 本会議第4日 (委員長報告・質疑・討論・表決)
 ※現時点での予定であり、変更される場合があります。
 変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

議長交際費 (1月1日～3月31日)

摘要	件数	金額
弔意	0件	0円
慶祝	16件	109,000円
協賛	0件	0円
計	16件	109,000円
24年度合計	78件	579,658円

陳情・意見書

《陳情》

- ◆最低賃金の大幅引き上げと、中小零細企業支援の拡充を求めることについて **【採択】**
提出者＝秋田県春闘共闘懇談会 代表 中村秀也 他1名
- ◆介護職員処遇改善加算の継続、拡充を求めることについて **【採択】**
提出者＝秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 中村秀也
- ◆安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求めることについて **【採択】**
提出者＝秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 中村秀也
- ◆鍛冶町地内の消雪施設の改修について **【継続審査】**
提出者＝大仙市刈和野 鍛冶町消雪組合 組合長 池田繁司

《意見書》

- 最低賃金の大幅引き上げと、中小零細企業支援の拡充を求める意見書
 - 介護職員処遇改善加算の継続、拡充を求める意見書
 - 安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める意見書
- ※上記意見書は、大仙市議会常任委員会の提案により議決し、内閣総理大臣はじめ各関係大臣に提出しました。

議会のつぎ

- 〔1月〕
- 11日 議会報編集委員会
 - 15日 議会運営委員会
 - 16日 大仙市観光推進議員連盟研修会
 - 18日 東京都墨田区議会公明党行政視察来庁
 - 21日 議員全員協議会
 - 23日 第1回臨時会
 - 29日 議会報編集委員会
 - 30日 埼玉県入間郡三芳町議会行政視察来庁
 - 31日 岩手県盛岡市議会会派創盛会行政視察来庁
 - 〔2月〕
 - 4日 第14回議会改革推進会議
 - 7日 建設水道常任委員会「所管事務調査」
 - 12日 新国会・だいせんの会・市民クラブ会派合同行政視察(13日)
 - 14日 会派代表者会議
 - 15日 議員全員協議会(当初予算説明会)
 - 18日 正副委員長会議
 - 19日 第19回公共施設運営改善等調査特別委員会
 - 20日 議会運営委員会
 - 25日 総務民生常任委員会「所管事務調査」
 - 26日 教育福祉常任委員会「所管事務調査」
 - 〔3月〕
 - 5日 大仙美郷介護福祉組合議会定例会
 - 6日 大仙美郷環境事業組合議会定例会
 - 7日 大曲仙北広域市町村圏組合議会定例会
 - 8日 第1回定例会(第1日)
 - 11日 議員全員協議会
 - 13日 第1回定例会(第2日)
 - 15日 第1回定例会(第3日)
 - 16日 会派代表者会議
 - 18日 第1回定例会(第4日)
 - 20日 第20回公共施設運営改善等調査特別委員会
 - 21日 各常任委員会審査
 - 22日 各常任委員会審査
 - 23日 議会運営委員会
 - 24日 第1回定例会(第5日)
 - 25日 議会報編集委員会
 - 26日 第15回議会改革推進会議
 - 大曲仙北広域市町村圏組合臨時議会

市民の声

大仙市商工会女性部では、研修事業の一つとして「地域を知る」ことを目的に市議会傍聴を企画し、20人が参加いたしました。地域の代表である議員の皆様が任期中の活躍と市民生活への関わりを知る機会として、大きな期待感を持ちながら拝聴させていただきました。傍聴席についてすぐに感じたことは、予想していたより狭く、少し窮屈だったということです。また、質問される議員の方々が市民の健康に関する事や広大な大仙市の山林道の整備についてなど、市民生活に直結する内容を深く考えてくださっていると感じました。具体的は何をどうしたら良いのか質問内容の要点が解りにくいところもありましたが、市民一人ひとりに配慮された質問内容でしたので、もっと多くの市民に市議会の内容を知っていただきたいと強く思いました。今後も議会傍聴や議会だより、広報により一層関心を持ちたいと思います。

大仙市商工会女性部 伊藤 まり子

大仙市一市民として受けとめるためにも、土川西今泉自治会で実施している「大仙市めぐり」は役立っている。市長、教育長、行政担当者の答弁はわかりやすく誠実で、専門の深さと誠意が伝わってくる事ばかりだった。午後4時まで、じっくり聴けてうれしかった。行政側、議員側共に緊張した姿勢と雰囲気から日常の目に見えぬところでの働きまでが伝わってきた。ありがとうと感謝の気持ちをこめて、一市民として市政に関心をもち研修を続けたいと会場を後にした。

土川地区 後藤 昌伸

協和婦人会では平成7年から研修事業として議会傍聴を実施しています。自分たちの代表が行政にどんな関わり方をしているか真剣に傍聴してきました。一問一答式になり、午前中の答弁だけでも聴け、よかった。年を重ねる毎に市の財政のこと、税金のこと、納税の実態、教育の問題、医療のこと、予期せぬ災害の対応等々、「生活即政治」を実感するようになりました。3月定例議会は、傍聴者が多く、また、質問、答弁と緊張感があり、頼もしく感じました。議場も質問者、答弁者と対面で応答しており好感がもてました。ただ、残念に思ったのは私が高齢のせいかも知れませんが、市長席のマイク設備が低音で折角期待していた答弁が良く聞き取れず、早く完全なものにして頂きたいと思えます。

大仙市協和婦人会

三月五日の定例議会に、自身二回目となる傍聴の機会を得た。地元選出議員が、市税、国保税と公共下水道計画について質問したが、答弁する側の語尾が全く聞き取れなかった。語尾は是非かを左右する箇所だと思ふ。また、傍聴席も少々狭いと感じたが、今回、議会事務局職員の丁寧な対応には、感謝している。

神宮寺地区 藤原 尚

大仙市のパワースポット(大曲・南外地域)

次回からは、「花めぐり、歴史めぐり」を掲載します。

何百年も生き続け私達人間を見守って来た巨木からは私達に生きる力を与えてくれます。



滝の不動杉

南外地域の名所として知られる不動の滝に立つ杉、地元では「大杉」と言われている。保呂羽山に源を発し、滝壁30m、落差10mといわれる不動の滝と一体となって、神木として敬われている。幹周370cm、樹高31m、推定樹齢315年



常泉寺のモミの木

南外地域にある常泉寺は檀岡氏の菩薩寺として安永5年(1776)に建立され建築時の茅葺屋根がそのまま残っている。モミの木も、その頃に植えられた。推定樹齢230年



新堀八幡のタモの木

大曲地域西根にある八幡神社の境内木、幹に空洞が生じている。伝説では前九年合戦の折、源義家が安倍貞任との戦いに、この神社に陣を張った跡で、タモの木8本を幕串にしたものが根づいたものという、現在は1本が残っている。幹周560cm、樹高16m、推定樹齢800年。



大曲丸の内八幡神社のモミの木

寛政の末から享和のはじめ(1800～)「土屋館の人たちがあまたうちむれ、社地の道を切り開いた」と記録されており、このモミの木もこの頃植えられた、幹周550cm、樹高25.8m、推定樹齢200年



編集後記

豪雪も啓蟄を機にとけきり、花の蕾がふくらんできた。この議会報が皆様の手に届く頃は、新緑の頃になるだろうか。大仙の四季折々の風景は郷土への愛を深めてくれる。

しかし、2年前の東日本大震災は、宇宙の法則の中で生きていく私達に、自然への畏敬の念を忘れてはならないことを教えてくれた。

私達大仙市議団一行は被災地へ足を運び、ガレキ処理中の作業を目の当たりにし、この処分受入から復興が始まると判断した。

被災地への支援も時と共に変わってゆく。今は、未来ある子ども達の30年後を見据えた支援が必要だ。

今いる場所で「議員として何が出来るか。」考え行動をおこそう。

行動は人格だ。

議会報編集委員

杉沢千恵子記

